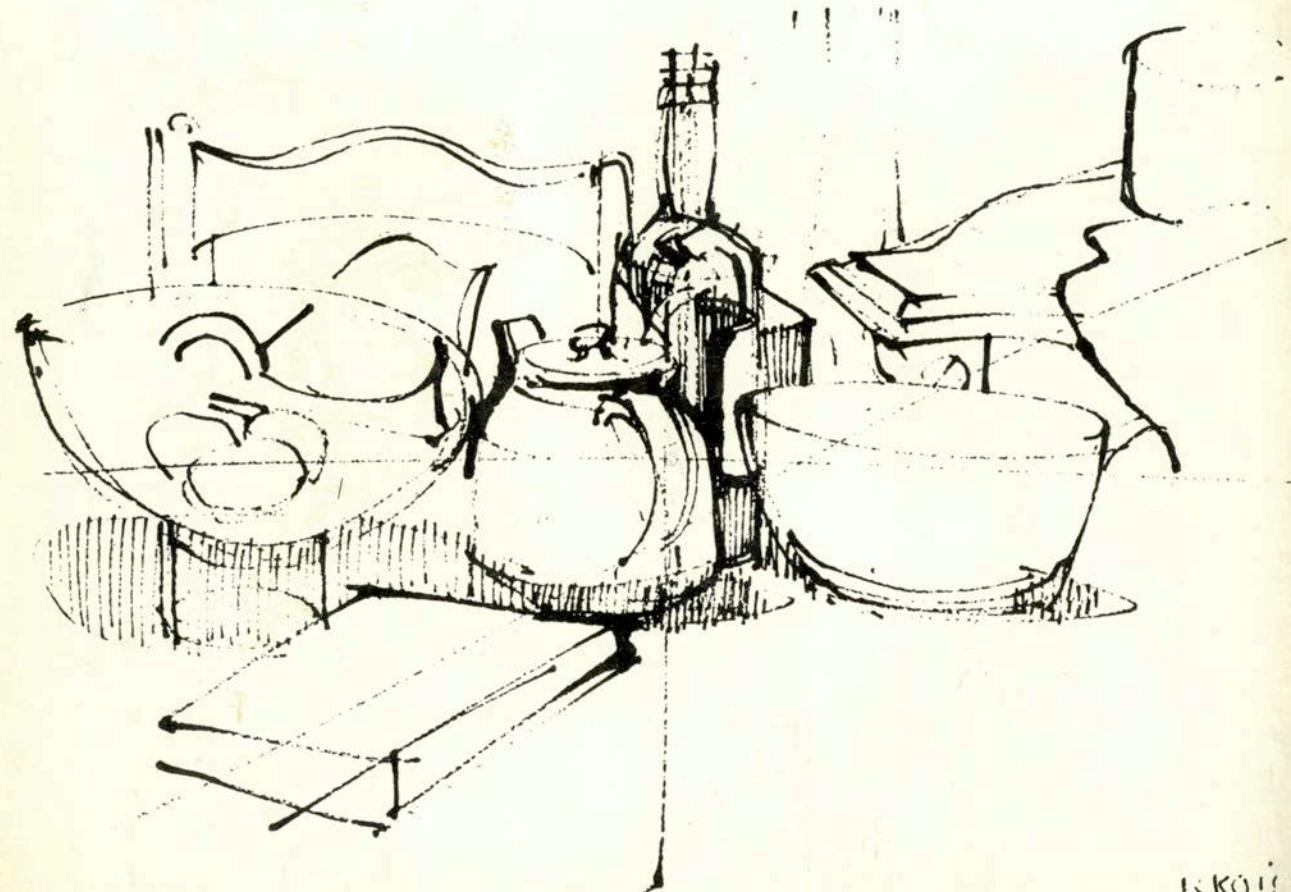


月刊「神戸っ子」昭和39年3月10日印刷通巻36号 昭和39年3月10日発行 毎月1回10日発行

郷土を愛する人々の雑誌

# 神戸っ子

3月号



monthly magazine kobekko march 1964 no, 36

コンテッサ／ルノー株式会社

7651



■コンテッサ／ルノーのご用命は神戸日野モーターへ TEL④5771~5 ■

これは神戸を愛する人々の手帖です

あなたの暮らしに楽しい夢をおくる

神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ

これは神戸っ子の心の手帖です



Miyazaki. 12. '64.

*Mikimoto Pearls*



永遠の気品、ミキモトパール。みがきぬかれた細工技術と  
香り高い芸術性は、海外でも高く評価されています。ミキ  
モトは権威と信望を集めた世界の宝石店です。

**ミキモトパール**  **御木本真珠店**

神戸店=三宮・神戸国際会館 T e l. 22-0062  
大阪店=堂島・新大ビル T e l. 361-0220

わ ら  
れ わ  
神戸っ子

1

# 辻 久子

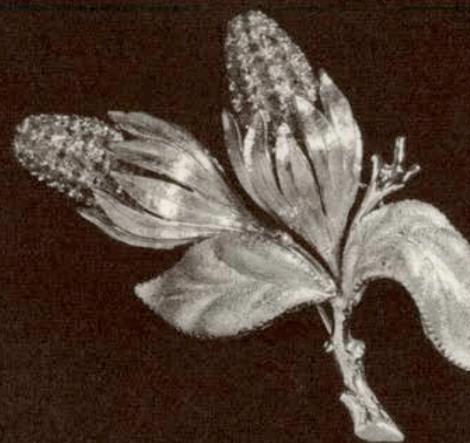
バイオリニスト  
相愛音楽大学教授

公演、勉強の繰返しで、ほんとに暇がありません。それに関西にいる時は弟子の稽古もしなければならないし、むしろ旅に出ている時の方がらくだと言われる。「どうも固いね」「力を抜いて自然に……そう」と、お弟子さんの稽古もなかなか厳しい。音の世界にはいると辻さんの表情は、生き生きと冴えてくる。(御影の自宅で)



撮影 / 西村雅司

確信をもって  
タジマの目が選んだ  
世界の宝石の名品！



W. G. 天然ルビー  
ブローチ  
イタリー製

Tajima  
宝飾店 タジマ

元町2・TEL(3)0387・2552

## 坂口千雄

川崎興産株式会社  
専務取締役

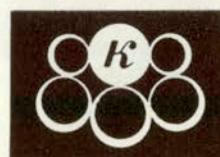
趣味はと言われると困るが、今は歌舞伎だと言うことにしている。田十郎の襲名披露の公演も東京まで観にいったらしいと言われる坂口さんは全くの万能選手、柔道は二段、囲碁二段、陸上競技も詳しい。しかしビリヤードは43年の球歴をもつて、いまも5本250の腕前、「若い頃は300ぐらいは突いたが」と言われるが、キューさばきは、聊かの衰えも見えない。(三宮・日の出撞球場)



撮影 / 西村雅司



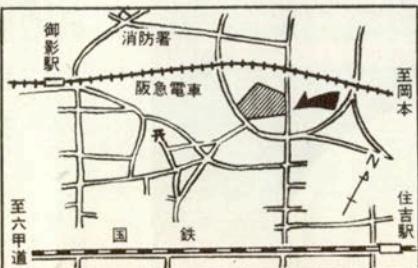
# Kaneko Pearls



金子眞珠

輸出専門の金子眞珠の新社屋が六甲山麓の住宅地御影に竣工いたしました。絶対の信頼をいたしている金子の眞珠を生産地から直接皆様にご販売出来ます。どうぞご遠慮なくお立寄下さい。

神戸市東灘区住吉町堂ノ本 1824  
TEL (85) 2628 · 9422

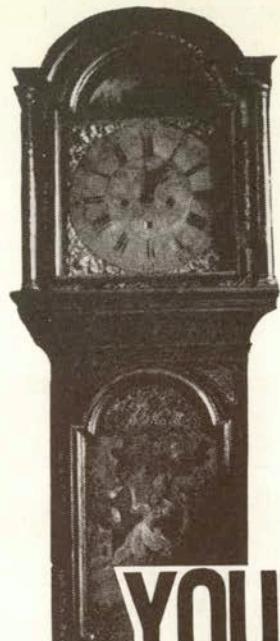


## 3月号目次



- 1 SECOND COVER / 絵・中西 勝
- 3 グラビヤ / われら神戸っ子①・辻 久子  
われら神戸っ子② 坂口干雄 / カメラ 西村雅司
- 8 わたしの意見 / 金井兵庫県知事
- 10 隨想三題 / 神戸の青春・別車博資  
みどりの袴で元ブラ・草笛美子  
わが青春寮歌と野球・直木太一郎
- 14 隨想 / 雲中小学校卒業生名簿・田宮虎彦
- 18 連載隨想第十九回  
鬼々怪会のことなど / 白川 湧
- 20 座談会 / ブレーン都市を目指せ！  
広瀬久重・吉林幸男・内山省吾・牛尾吉朗
- 24 経済ポケットジャーナル
- 27 連載第十二回（最終回） / 神戸とエトランゼ  
夢かうつつか青い目の68年。一・陳舜臣
- 32 映画のこと手当り次第① / 淀川長治
- 34 香港情報 / 小川丑郎
- 37 季節のモード / 春の帽子・福富芳美
- 43 暮しのバラエティ① / おしゃれな眼鏡
- 46 座談会 / 兵庫文壇はいま花ざかり  
田辺聖子・陳 舜臣・足立巻一・青木重雄・森木正一  
安水稔和・赤尾兜子
- 52 ピンクコーナー / (T)
- 55 神戸遊戯誌 7 / ビリアード①・青木重雄
- 58 神戸うまいもん巡礼 No. 19 / 赤尾兜子
- 60 紳士入門⑩ / 紳士文章作法・竹田洋太郎
- 62 ポケットジャーナル
- 64 KOBEKKO SHOPPING GUIDE
- 70 連載第11回 / 神戸夫人・武田繁太郎
- 74 愛読者コーナー・神戸っ子ごあんない
- 76 グラビヤ / 猫さん神戸の街をゆく / カメラ 緒方しげを

表紙・小磯良平 / カメラ・米田定蔵 / デザイン・橋 昭三



# YOUNG CLASSIC

for the young and  
the young-at-heart

男の服飾

マツク

三宮本店 神戸センター街  
TEL ⑧ 0895  
トアロード店 センター街西口  
TEL ⑧ 0896  
新開地店 新開地本通り  
TEL ⑤ 7688  
姫路店 姫路駅デパート  
TEL ⑧ 1261

# Fuchsheim's

## ドイツ菓子

ピラミッド  
ビスケット  
各種ケーキ

# ユーハイム

本店・三宮生田神社西隣  
神戸そごう・神戸三越・国際名菓店

\*わたしの意見

# 神戸の文化を盛り上げよう

金井元彦 兵庫県知事



——県民に明るい話題を提供して喜ばれているのは、やはり、のじぎく賞ですが、知事のお考えはいかがですか。「のじぎく賞は、小さな善行をたたえて、その善意を奨励しようと言うのです。県民の皆様にかわって、善行に気軽に有難とうを言うものなんです。そして、あまりやかましく言わないで、皆んなが心の中にもっている善意を行動に現わしていくだごうと言うものです。元來、外国人にくらべて日本人は照れ性だから、判つてもなかなか行動に移さないところがあるんです。だから善行のムードをたかめることは必要だと思いますよ。」

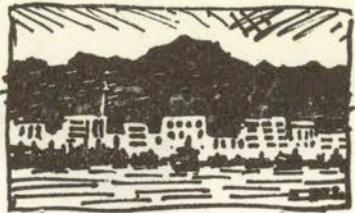
——金井知事は文化にはご関心が深いそうですが、兵庫県としては文化に対する行政はいかがですか――

「兵庫県としましては、芸術祭を毎年開催しており、県民市民がいい芸術に、より親しめる機会をもちたいと考えていますので、各方面から意見を寄せていただきたいのです。今年度は古文化の保存にも力を注ぎたいと思って、若干の予算も計上していますが、特に文化財としての建物、仏像などの保存、埋蔵文化の調査保存などを再検討して見るつもりです。それに旧跡などの扱いも考えて見ます。例えば、源平合戦の旧跡、松風村雨、求女塚などの遺跡の扱い方がお粗末なのでね。ローマなどでは、古代の遺跡などが非常に大切に保存され、現代の文化と混然一体となつて見事に生かされていますよ。」

——金井知事は神戸っ子なんですが、神戸っ子として、現在の神戸にのぞまれることは――

「神戸がもう少し、パリッとしてほしいね。何かしら以前の清潔さがないように思うし、活気もない。むかしは神戸は先端的なところがもつとあったと思う。これは、神戸人としては考えなければならないところだな。私は神戸は文化をもつと盛り上げねば思いますよ。大都市に人が集るのは、文化・教育の程度が高いからなので、その土地の繁栄には欠かすことの出来ないことだと考えています」

## □ 隨想三題 □



カット 別車 博資

ことば、今昔と申されたのは、そ  
の昔、昭和初期の私の第一回個展  
(神戸画廊)に際し紹介文を書い  
ていたいたからである。

当時の朝倉先生は朝日新聞神戸

支局長時代で美術記者を兼ね、そ  
の美術評論は「朝日」の紙価を高  
くしたものである。又各紙も競う  
て美術欄を賑わし、県下洋画壇は  
飛躍する。

画家の集り交友も繁くなり、あ  
ちら、こちらの酒場や喫茶店で氣  
焰を上げたことは今の若い画家連  
中より盛んであったかもしだ  
い。

港祭りの初期には仮装して元氣  
にねり歩いたり、その稚氣は時に  
須磨寺の花見くり出したりした  
各社のジャーナリスト、しゅう集  
家、ファンも合同であった。

又夏の須磨海岸に集まつて遊ん  
だ時は坂本益夫氏とまわしをしめ  
て双方十二貫五百(四七キロ)の  
骨体美を競つたし、當時誰もが  
朝閑(ちょうかん)と愛称した朝  
倉先生を仁木彈正の床下のどぶね  
ずみと見立てて足で踏まえ、男之  
助の身振りよろしく先代高島屋ば  
りのせりふをうなつた記憶もある  
であつた。戦後は一層画筆に励む  
くせに個展を怠つていたと言える

それだけにこの度の個展には力  
が入り、著名な知友方から「別車  
博資の人と作品」紹介のために親  
愛のあふれた「推薦の言葉」を寄  
せてもらつた。そのなかに朝倉斯  
道先生の「今昔の感がある」との  
神戸でもミルクホールが高級化し  
て喫茶店が出てはじめていて、元  
町六丁目の薬局三星堂の二階の喫

茶室は日本的に有名になつたが、  
あの附近に新聞社がたたまつてい  
たので若い記者達の常連が多かつ  
た。時には小個展が開かれ、私  
も列べたことがある。

ここのお茶やコーヒーの値段は一

般の三倍の十五銭であったがい  
くらでもおかわりをくれた。ここ  
を振出しに元アーティストの大丸前の  
プラジレイロに入るのが私達仲間  
の日課の時代であつた。このコヒ  
ヒ店の奥がソシヤルダンスホール  
で、ここから神戸のモダンボーイ  
が育つた。話に興がつきないと、  
南京町の焼そばで腹ごしらえをし  
て、更に布引まで歩き、プラック  
エンドホワイトなるスマックバー  
を訪ねた。下戸の私はここでもコ  
ーヒであったが、東京のコーヒ党  
を案内すると、そのふんいきその  
味と十銭の安さに驚きながら神戸  
をほめてくれた。

アルコール党は加納町二のバー  
アカデミイ、福原のスマッキー、大  
丸前のおでん屋たぬきが歴訪先き  
であつた。  
(洋画家)

### みどりの袴で

草 笛 美 子

昭和七、八年の頃でしょうか、  
まだ私が宝塚歌劇団の生徒の頃。

緑の袴に、銘仙の快の着物、黒く長い髪はひつめて三つ編み。その耳許に真紅のバラの花をつけ小さな櫛をかざし、ちょっとと気取つたおしゃれのつもりで、草路潤子さん、寿三千代さんといった仲好しと、舞台のあい間に神戸へ遊びに行くのが何よりの楽しみでした。

まず、大丸前の「ミサワ」という舶来品の趣味の店で、舞台用のアクセサリーを買って、次が元アラです。「高砂屋」のきんづばを15個は平らげましたし、関学ボーカイのたまり場「本庄」でお茶を飲み、「紅葉軒」の大きくて美味しいビフテキを食べ、とにかく頂くお給料の全部が、食い気一方で消え失せるという有様でした。どうしてあんなに食い氣があつたのかしらと考えていましたら、その頃の大劇場はマイク設備など全然なく、ありつけの声を張りあげて歌っていました。その上飛んだり跳ねたりですから無理もありません。それから新開地の松竹座にも洋画キチガイでよく通いました。

「我はトウランドットなり、あでに咲く牡丹の花か、あゝ我が姿、永遠に永遠に美しく咲け……」と歌いながら40段の階段を裾をひき侍女にかしづれて登場する「トウランドット姫」を演じた時。ニキビ華やかな頃に、類いまれなる姫

君を演じる辛さは、並大低でなく、客席の方には悟られなくても、「今日の姫君は、ずい分大きな才デキがあるわア」と周りに冷かされ、毎日鏡を恨めしくにらんでいたものです。

白井鉄造先生の「ミュージカル

アルバム」で、それ迄の宝塚にはなかつた大人っぽい外国の酒場女の役があつられました。真赤なネ

ックカーチーに黒ビロードのドレスで、セーヌの岸辺に立ち、ガス灯の下で煙草をくゆらせ、暗い過去を低音でダミア風に歌うのです。

一本の煙草を吸い終つた時「アル

ミタ」の唄も終りを告げます。当

時としては非常に思い切つた舞台で大変な人気でした。私も初めてパーマをかけ、あの役に一生懸命になりました。ほんとに忘れられない思い出の舞台です。

その頃、共に声楽専科だったエツチンタッチンこと、橘薰、三浦時子さんのコンビにはよく引き立てて下さいましたし、相手役の男装の麗人には、小夜福子、芦原邦子、奈良三也子さんなど、又いま文学座にいらつしやる南美江さん

が美空曉子といつて男役でマダム族に大変人気がありました。熱烈なファンもとても純情で、たまに樂屋に逢いたいと来て下さつてもどちらものも言えないで、顔を赤らめてモジモジしていたもので

す。昭和十四年にはアメリカ巡演もあり、レビューアの全盛でした。

若くても好きな道だったので、少々貧乏しても、良い歌を唄えばいいという芸術家の誇りを持って胸を張っていたようです。私の青春は夢多いロマンチックな時代でした。そして神戸の町も良き時代でした。

今はその好きな神戸の元町で、「紅梅」という店を開いています。その頃のファンの方も良く訪ねて下さって、懐いタカラヅカの唄に店が湧き立つこともあります。

(元宝塚スター)

## わが青春 寮歌と野球

直木太一郎

その頃神戸駅前にあつた「相生町の三つ輪」は毎年三月一日には造化の桜で飾られ椅子をさかさにして紙をはつて行燈のように火がともされたが、これはその日に例年神戸一高会がここで開かれるためであった。女人禁制がこの日だけ解かれた母校一高の記念祭を偲んで古くから行われて来たしきたりであった。

小泉良助先輩から「お前やれ」と言われてこの会の幹事を引き受けたのは、昭和の初年で、それから

川崎芳熊と二人で戦争になるまで長い間を幹事としてつとめたのである。歴代の兵庫県知事も湯沢三千男、白根竹介、小柳牧衛、坂千秋など皆会員であった。「普選の神様」と言われて颯爽たる乗馬姿で知られていた今井嘉幸博士もそうであった。久米孝蔵、徳岡英などはその頃からの生き残りである。

日本郵船の大争議で名を知られたいた勝山勝司もこの会の常連でいつも「私の居た頃は正に一高の黄金時代であった」と広言していたが、之に対し川崎芳熊幹事はいつも「先輩の頃はあゝ玉杯や春爛漫の如き寮歌の黄金時代に過ぎないが、われわれの頃はサウスポー慶村投手の怪腕がよく早稲田、慶應、學習院、三高をいすれもスコーンクで一蹴し去った実に野球の黄金時代であった」と遠慮なく挑んでいた。

寮歌と野球、これがその頃の私たちの青春の中心を占めるものであった。

日本の野球の草分けの一人青井鉢男も神戸一高会へ出て来て「エール大学の選手ストレージが組織的な野球を日本へ伝えたのは明治七年であったと言っているが、自分が第一高等中学校で野球をやったのは明治廿七年で初代投手が岩岡博士で自分は三代目であつた。その頃横浜のストーレンと言う人から野球の正式の規則書を貰つて読んでみるとそれ迄やつていてことは多く反則であったと言う笑い話もある」と話している。

「勝ったがえい。勝ったがえい。勝った方がえい。」と言うエールは野球の応援で太鼓の響、白旗の波といつしょにいつも叫ばれていたがその通り勝つて勝つて勝ちまくったのは大正七年の一高野球部で川崎芳熊幹事や私の居た野球の黄金時代であった。

「あゝ玉杯」は矢野勘治の作で彼は勝山勝司と寮の同室であった矢野は寝室で蒲團をかぶつてローソクの明りでそれを書いていたが、はじめ「玉の杯花浮べ、緑の酒に月宿し」であったが、力弱いと言うので作曲の時変えられた」と言う。勝山勝司は更に「緑もぞ濃き」をいたく推奨し「これは芝碩文の作詞で俳趣に富んでいる」と言ったが「あゝ玉杯」と共に楠正一の作曲でこれらは今尚名曲とされている。楠正一は実に青年歌の作曲の天才であった。「春爛漫」も作詞は矢野勘治だが作曲したのは豊原雄太郎であった。彼も優美で繊細で私らが歌っていたようなものではなかつた。これらは當時のインテリ女性であつた女学

生や看護婦らの間でも愛唱され、病院や女学校の寄宿舎の窓にしてこのメロディの流れ出ていた所は少なかつたと言われたものである。

神戸一高会が遠来の多くの先輩連を常盤花壇に迎えるに当つて「あゝ玉杯」「春爛漫」に花柳芳五郎の振付を頼み、花隈の若手連が紺がすり袴姿の一高生徒となつてボートレース踊りを見せて喝采を博したが、其時柏の徽章のついた制帽が楠公前店の手に入つたと言うので驚いた。これは当時神戸一中から毎年一高へ三十人以上が大量入学していて、受験生の間でカーキ色の制服制帽が大いに幅を利かせていた時代であったからであろう。

「あゝ玉杯」「春爛漫」を三味線にのせるため日銀支店長の柳田誠二郎が連日花隈へ出張して教授したが、「鳥は鳴り蝶は舞い」というところが何度も三味線にのらず娘さん連中が大汗をかいだと言うし、歌詞を渡された彼女らが「魑魅魍魎」が読めず、検番の物知りが辞典をかかえて走り廻つたと伝えられている。

(神港倉庫KK社長)

マロングラッセは  
ヒロタの銘菓

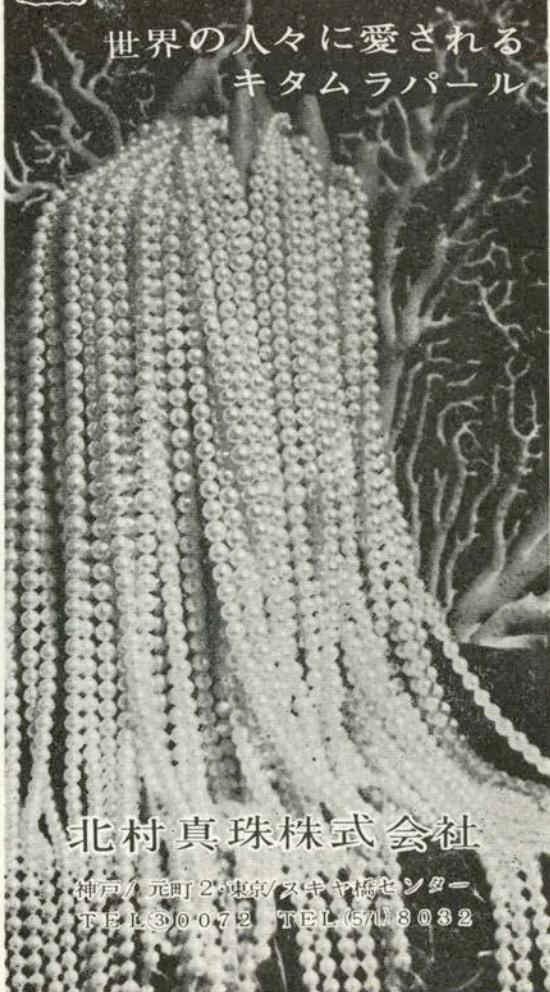
世界中の人からほめられた

日本の誇り 神戸のほまれ

元町通三丁目 TEL(3)二二三四〇番

K KITAMURA PEARLS

世界の人々に愛される  
キタムラパール



北村真珠株式会社

神戸／元町2丁東京／スキヤ橋センター  
TEL(3)0072 TEL(571)8032